

安全データシート(SDS)

NPAC (酢酸n-プロピル)

作成日2014年5月7日

改定日2016年5月20日

改定日2018年8月30日

1. 化学品及び会社情報

化学物質等の名称:	NPAC (酢酸n-プロピル)
会社名:	新日本化学工業株式会社
住所:	千葉県香取郡多古町十余三385-140
電話番号:	0479-75-2791
緊急時の電話番号:	0479-75-2791
FAX番号:	0479-75-2796
推奨用途及び使用上の制限:	塗料及びインキ希釈用及び洗浄用

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性	爆発物	分類対象外
	可燃性・引火性ガス	分類対象外
	可燃性・引火性エアゾール	分類対象外
	支燃性・酸化性ガス	分類対象外
	高压ガス	分類対象外
	引火性液体	区分2
	可燃性固体	分類対象外
	自己反応性化学品	分類対象外
	自然発火性液体	区分外
	自然発火性固体	分類対象外
	自己発熱性化学品	区分外
	水反応可燃性化学品	分類対象外
	酸化性液体	分類対象外
	酸化性固体	分類対象外
	有機過酸化物質	分類対象外
	健康に対する有害性	金属腐食性物質
急性毒性(経口)		区分外
急性毒性(経皮)		区分外
急性毒性(吸入:ガス)		分類対象外
急性毒性(吸入:蒸気)		区分外
急性毒性(吸入:粉じん、ミスト)		分類できない
皮膚腐食性・刺激性		区分外
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性		区分2B
呼吸器感作性		分類できない
皮膚感作性		分類できない
生殖細胞変異原性		分類できない
発がん性		分類できない
生殖毒性		分類できない
特定標的臓器・全身毒性 (単回ばく露)		区分1(中枢神経系)、区分2(肝臓)、区分3(麻醉作用、気道刺激性)
特定標的臓器・全身毒性 (反復ばく露)		分類できない
環境に対する有害性		吸引性呼吸器有害性
	水生環境急性有害性	区分3
	水生環境慢性有害性	区分外

絵表示又はシンボル:



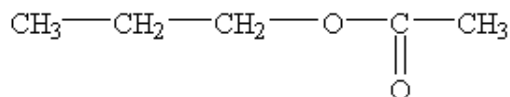
注意喚起語: 危険有害性情報:	危険 引火性の高い液体及び蒸気 眼刺激 呼吸器への刺激のおそれ 眠気又はめまいのおそれ 中枢神経系の障害 肝臓の障害のおそれ 水生生物に有害
注意書き:	【安全対策】 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。-禁煙。 防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。静電気放電や火花による引火を防止すること。 保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。 屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。 ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。 環境への放出を避けること。 【応急措置】 火災の場合には適切な消火方法をとること。 吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 眼に入った場合: 水で数分間、注意深く洗うこと。コンタクトレンズを容易に外せる場合には外して洗うこと。 皮膚に付着した場合: 多量の水と石鹼で洗うこと。 皮膚(又は毛髪)に付着した場合: 直ちに、すべての汚染された衣類を脱ぐこと、取り除くこと。 ばく露又はその懸念がある場合: 医師の診断、手当てを受けること。 眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。 分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。 皮膚刺激があれば、医師の診断、手当てを受けること。 【保管】 容器を密閉して涼しく換気の良いところで施錠して保管すること。 【廃棄】 内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。
国/地域情報:	情報なし

3. 組成及び成分情報

物質

化学名又は一般名: 別名:	酢酸n-プロピル(n-Propyl acetate) 1-アセトキシプロパン(1-Acetoxypropane) 酢酸1-プロピル(1-Propyl acetate) 酢酸、n-プロピルエステル(Acetic acid, n-propyl ester)
化学式: 化学特性	$\text{CH}_3\text{COO}(\text{CH}_2)_2\text{CH}_3$

(化学式又は構造式):



CAS番号: 官報公示整理番号 (化審法・安衛法): 分類に寄与する不純物及び安定化 添加物: 濃度又は濃度範囲:	109-60-4 (2)-727 情報なし 情報なし
--	-------------------------------------

4. 応急措置

吸入した場合:	新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
----------------	----------------------------------

皮膚に付着した場合:	<p>気分が悪い時は医師を呼ぶこと。 直ちに、すべての汚染された衣類を脱ぎ取り去ること。 皮膚を速やかに洗浄すること。 気分が悪い時は医師を呼ぶこと。 脱いだ衣類を再使用する前に洗濯し汚染除去すること。 皮膚刺激があれば、医師の診断、手当てを求めること。</p>
目に入った場合:	<p>コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。洗浄を続けること。 水で数分間、注意深く洗うこと。 眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。</p>
飲み込んだ場合:	<p>気分が悪い時は医師を呼ぶこと。 口をすすぐこと。 吐かせる。ただし、嘔吐物が気管に入らないように身体を斜めにする。</p>
予想される急性症状及び遅発性症状: 最も重要な兆候及び症状:	<p>蒸気の吸入により咳、咽頭痛。ばく露により、眼の発赤、皮膚の乾燥。</p>
応急措置をする者の保護:	<p>救助者は、状況に応じて適切な保護具(有機溶剤用の防毒マスク等)を着用する。</p>
医師に対する特別注意事項:	<p>情報なし</p>

5. 火災時の措置

消火剤:	<p>小火災: 二酸化炭素、粉末消火剤、散水、耐アルコール性泡消火剤 大火災: 散水、噴霧水、耐アルコール性泡消火剤</p>
使ってはならない消火剤: 特有の危険有害性:	<p>棒状注水 火災によって刺激性、毒性、又は腐食性のガスを発生するおそれがある。 引火性の高い液体及び蒸気 加熱により容器が爆発するおそれがある。</p>
特有の消火方法:	<p>散水によって逆に火災が広がるおそれがある場合には、上記に示す消火剤のうち、散水以外の適切な消火剤を利用すること。 大規模火災には、泡消火剤を用いて空気を遮断する。 引火点が極めて低い。散水以外の消火剤で消火の効果がでない大きな火災の場合には散水する。 危険でなければ火災区域から容器を移動する。 移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。</p>
消火を行う者の保護:	<p>消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。 できるだけ風上から消火し、蒸気、燃焼ガスの吸入を避ける。</p>

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置:	<p>作業者は適切な保護具(「8. ばく露防止及び保護措置」の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。 漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者以外の立入りを禁止する。 漏洩しても火災が発生していない場合、密閉性の高い、不浸透性の保護衣を着用する。 風上に留まる。 低地から離れる。 密閉された場所に入る前に換気する。</p>
環境に対する注意事項:	<p>河川等に排出され、環境へ影響を起さないように注意する。</p>
回収、中和:	<p>少量の場合、乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収する。 少量の場合、吸収したものを集めるとき、清潔な帯電防止工具を用いる。 大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて回収する。 大量の場合、散水は、蒸気濃度を低下させる。しかし、密閉された場所では燃焼を抑えることが出来ないおそれがある。</p>
封じ込め及び浄化方法・機材:	<p>危険でなければ漏れを止める。 漏出物を取扱うとき用いる全ての設備は接地する。</p>

蒸気抑制泡は蒸発濃度を低下させるために用いる。

二次災害の防止策:

すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策: 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

局所排気・全体換気: 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行なう。

安全取扱い注意事項: 周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。
容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。
接触、吸入又は飲み込んではいけない。
屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。
取扱い後はよく手を洗うこと。

接触回避

保管

技術的対策: 保管場所は壁、柱、床を耐火構造とし、かつ、はりを不燃材料で作ること。
保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他の軽量な不燃材料でふき、かつ天井を設けないこと。
保管場所の床は、床面に水が浸入し、又は浸透しない構造とすること。
保管場所の床は、危険物が浸透しない構造とするとともに、適切な傾斜をつけ、かつ、適切なためすを設けること。
保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設定を設ける。

保管条件: 熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。-禁煙。
冷所、換気の良い場所で貯蔵すること。
酸化剤から離して保管する。
容器は直射日光や火気を避けること。
容器を密閉して保管すること。
施錠して貯蔵すること。

混触危険物質: 「10. 安定性及び反応性」を参照。

容器包装材料: 消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度: 200ppm

許容濃度(ばく露限界値、生物学的ばく露指標):

日本産業衛生学会(2015年版)	200ppm	830mg/m ³
ACGIH(2015年版)	TLV-TWA 200ppm STEL 250ppm	

設備対策: 製造業者が指定するその他の防爆の電気、換気、照明機器を使用すること。
静電気放電に対する予防措置を講ずること。
空気中の濃度を制御するには、一般適正換気で十分である。
この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。

保護具

呼吸器の保護具: 適切な呼吸器保護具を着用すること。

手の保護具: 適切な保護手袋を着用すること。

目の保護具: 適切な眼の保護具を着用すること。

皮膚及び身体の保護具: 適切な保護手袋及び眼、顔面用の保護具を着用すること。

衛生対策: 保護具は保護具点検表により定期的に点検する。
取扱い後はよく手を洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態、形状、色など: 無色液体⁵⁾

臭い: 特異臭^{1),5)}

pH: データなし

融点・凝固点: -92°C(融点)⁵⁾, -95°C(凝固点)³⁾

沸点、初留点及び沸騰範囲:	101.6°C(沸点) ⁵⁾ , 101.67°C(沸点) ⁴⁾
引火点:	14°C(密閉式) ⁵⁾ , 13°C ⁴⁾
爆発範囲:	下限 2 vol%、上限 8 vol% ⁵⁾ 下限 1.8 vol%、上限 8 vol% ²⁾
蒸気圧:	3300Pa(20°C) ⁵⁾ , 4496Pa(33.73mmHg)(25°C) ⁶⁾ , 4785Pa(35.9mmHg)(25°C) ⁷⁾
蒸気密度(空気 = 1):	3.5g/cm ³ (空気 = 1) ⁵⁾
比重(密度):	0.9(水 = 1) ⁵⁾ , 0.886(20°C) ³⁾
溶解度:	水に微溶。 ⁵⁾ 1.6mL/100mL水(16°C) ¹⁾ , 2.3wt%(20°C) ⁶⁾ アルコール, エーテルに可溶。 ¹⁾ アルコール, エーテル, 炭化水素, エステルに可溶。 ⁶⁾
オクタノール/水分配係数:	log Pow = 1.24 ⁵⁾ , log Pow = 1.23 ⁸⁾
自然発火温度:	450°C ⁵⁾ , 430°C ⁴⁾
分解温度:	データなし
臭いのしき(閾)値:	データなし
蒸発速度(酢酸ブチル = 1):	データなし
燃焼性(固体、ガス):	該当しない
粘度:	データなし

10. 安定性及び反応性

安定性:	強酸化剤、強塩基、強酸、強酸塩と反応して大炎や、爆発の危険をもたらす
危険有害反応性可能性:	水の存在下で、加水分解により酢酸を生じ、各種の金属を侵す。各種プラスチックを侵す。
避けるべき条件:	高温。
混触危険物質:	強酸化剤、強塩基、強酸、硝酸塩
危険有害性のある分解生成物:	加水分解により酢酸を生成する。燃焼により、一酸化炭素、二酸化炭素を生成する。

11. 有害性情報

急性毒性:	経口 ラット LD ₅₀ 9.8mL/kg (8.7g/kg) ³⁾ 吸入 ラット LCL ₀ 8000ppm ²⁷⁾ 吸入 ラット LC 8000ppm 6匹中4匹死亡 ²¹⁾ (吸入:蒸気)GHS分類:区分外
皮膚腐食性・刺激性:	GHS分類:区分外
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性:	ネコにおける2600ppmばく露試験で眼に刺激性が認められた。 ³⁾ ウサギによるドライズテストの結果は軽度。 ⁹⁾ ヒトに1000mg/m ³ のばく露で流涙を認めた。 ⁹⁾ 眼刺激(区分2B)
呼吸器感作性又は皮膚感作性:	データなし
生殖細胞変異原性:	データなし
発がん性:	データなし
生殖毒性:	データなし
特定標的臓器・全身毒性	ヒトに対して気道刺激性及び中枢抑制があるとの記載 ¹⁴⁾ 、及び中枢神経系及び肝臓に影響を及ぼすおそれがあるとの記載 ²⁴⁾ がある。ネコにおいて流ぜん(10.9mg/L ²¹⁾)及びよろめき歩行(30.9mg/L ¹⁴⁾)、ラットにおいて鎮静(ばく露用量不明 ²²⁾)の記載があり中枢作用を示唆している。ネコ及びマウスで麻酔作用の記載がある ^{21), 14), 22)} 。
(単回ばく露):	一方、深い麻酔状態を呈した動物は迅速に回復したとの記載 ²³⁾ がある。これらの情報に基づき区分1(中枢神経系)、区分2(肝臓)、及び区分3(気道刺激性、麻酔作用)とした。 中枢神経系の障害(区分1) 肝臓の障害のおそれ(区分2) 呼吸器への刺激のおそれ(区分3) 眠気又はめまいのおそれ(区分3)
特定標的臓器・全身毒性 (反復ばく露):	情報なし
吸引性呼吸器有害性:	データなし

12. 環境影響情報

水生環境急性有害性:	魚類(ファットヘッドミノー)LC ₅₀ 60mg/L/96H ⁶⁾ 水生生物に有害(区分3)
水生環境慢性有害性:	急速分解性があり(BODによる分解度:81% ²⁵⁾)、かつ生物蓄積性が低いと推定される(log Kow = 1.24 ²⁶⁾)ことから、区分外とした。
オゾン層への有害性:	情報なし

13. 廃棄上の注意:

残余廃棄物:	廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。 廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。
汚染容器及び包装:	容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規制

海上規制情報	IMOの規定に従う。
UN No.:	1276
Proper Shipping Name:	n-Propyl acetate
Class:	3
Packing Group:	II
Marine Pollutant:	Not applicable
航空規制情報	ICAOの規定に従う。
UN No.:	1276
Proper Shipping Name:	n-Propyl acetate
Class:	3
Packing Group:	II

国内規制

陸上規制情報	消防法の規定に従う。
海上規制情報	船舶安全法の規定に従う。
国連番号:	1276
品名:	酢酸n-プロピル
クラス:	3
容器等級:	II
海洋汚染物質:	非該当
航空規制情報	航空法の規定に従う。
国連番号:	1276
品名:	酢酸n-プロピル
クラス:	3
等級:	II

特別の安全対策

消防法の規定に従う。

危険物は当該危険物が転落し、又は危険物を収納した運搬容器が落下し、転倒もしくは破損しないように積載すること。

危険物又は危険物を収納した容器が著しく摩擦又は動揺を起こさないように運搬すること。

危険物の運搬中、危険物が著しく漏れる等災害が発生するおそれがある場合には、災害を防止するための応急措置を講ずると共に、もよりの消防機関その他の関係機関に通報すること。

移送時にイエローカードの保持が必要。

15. 適用法令

労働安全衛生法:	名称等を通知すべき有害物 (法第57条の2、施行令第18条の2別表第9) (政令番号 第182号) 名称等を表示すべき有害物 (施行令第18条)
----------	--

	第2種有機溶剤等 (施行令別表第6の2・有機溶剤中毒予防規則第1条第1項第4号)
	危険物・引火性の物 (施行令別表第1第4号)
消防法:	第4類引火性液体、第一石油類非水溶性液体 (法第2条第7項危険物別表第1)
船舶安全法:	引火性液体類 (危規則第2, 3条危険物告示別表第1)
航空法:	引火性液体 (施行規則第194条危険物告示別表第1)

16. その他の情報

記載内容は当社の最善の調査に基づいて作成しておりますが、記載のデータや評価に関しては必ずしも安全性を十分に保証するものではありません。

全ての化学製品には未知の有害性が有り得る為、取り扱いには細心の注意が必要です。ご使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定下さるようお願いいたします。